

幼児期における自然体験活動「村山版森のようちえん」の普及

山形県村山総合支庁産業経済部森林整備課

○ 主任専門林業普及指導員 片桐政和
林業普及指導員 井上 浩

1 はじめに

幼稚園などの幼児教育施設では、幼児期からの自然体験活動の重要性は認識しているものの、保育者の自然体験活動、森林に関する知識不足や幼稚園などの運営等の問題から実施園は少ない状況にある。また、野外活動と幼児教育に関する両方の知識を有し、森のようちえんを指導できる人材が不足している。

そこで、村山地域（山形市ほか13市町）の幼児が自然体験活動に取り組める環境を整備するため、平成23年度に「村山版森のようちえん」をモデル的に実施し、課題等を抽出し検討や検証を加えながら、幼児と森林が関わり合える姿をつくり、地域の幼稚園などへ普及させる取り組みを行ったので紹介する。

2 実施内容

やまがた緑環境税を活用した村山版森のようちえん普及推進事業を実施し、課題や問題点を抽出するためのモデル実施、「村山版森のようちえん」を実践できる保育者の養成、保育施設を支援するサポーターの養成を行った。

また、「村山版森のようちえん」を保育施設へ普及させるための人材を育成するとともに、地域内の保育園や幼稚園へ森林を活用した自然体験活動の有効性等について普及する活動を行った。

(1) モデル実施

地域の幼稚園を対象に、「村山版森のようちえん」をモデル的に実施し、課題や問題点を抽出した。

モデル実施園：東原幼稚園（年中児35名）

実施日及び場所：第1回（春） 6月30日（木）西蔵王公園（山形市）

第2回（夏） 8月27日（土）県民の森（山辺町）

第3回（秋） 10月25日（火）朝日少年自然の家（大江町）

※（夏）は一般の親子20組を募集して実施

講師：山形県キャンプ協会 事務局長 石井 勝 氏

(2) 森の保育者養成講座

保育施設の保育者を対象に、森林や樹木に関する知識、葉や枝、木の実を使ったアクティビティ、森林内での安全管理などについての研修会を開催し、「村山版森のようちえん」を実践できる保育者の養成を行った。

実施日及び場所：第1回 6月30日（木）西蔵王公園（山形市）
第2回 1月11日（水）遊学館（山形市）
講 師：東北文教大学短期大学部 准教授 佐東 治 氏、石井 勝 氏

(3) サポーター養成講座

森林関係のボランティア等を対象に、モデル実施に同行しながら、森林内での幼児との接し方や園の活動を補助する手法等についての研修会を開催し、将来幼稚園や保育園が「村山版森のようちえん」を実施する際に園の活動をサポートする人材の育成を行った。

実施日及び場所：第1回 6月30日（木）西蔵王公園（山形市）
第2回 10月25日（火）朝日少年自然の家（大江町）
講 師：東北文教大学短期大学部 准教授 佐東 治 氏、石井 勝 氏

(4) 村山版森のようちえん検討委員会の開催

幼児教育に関する有識者、保育園、幼稚園の園長、野外活動の専門家及び行政機関の担当者を委員とする検討委員会を年5回開催し、「村山版森のようちえん」を実施するにあたっての課題や問題点等の抽出、実施内容の検討、検証を行い、この取り組みを村山地域一円に普及させるためのマニュアルを作成した。

開催日及び場所：第1回 5月30日（月） 村山総合支庁（山形市）
第2回 8月1日（月） 〃
第3回 10月18日（火） 〃
第4回 2月16日（木） 〃
第5回 3月5日（月） 〃

(5) その他

ア 「村山版森のようちえん」の普及

地域にこの取り組みを普及させるため、(財)山形県みどり推進機構へ幼児の自然体験活動を支援する人材の育成及び幼稚園、保育園への普及活動を行う業務を委託して実施した。

委託内容：人材育成のための自然体験教育研修の受講、自然体験教育活動への参加、「村山版森のようちえん」モデル実施への協力、村山地域の保育施設250箇所への普及活動等

イ 「村山版森のようちえん」の他地域への波及

幼児の自然体験活動を進める「村山版森のようちえん」は、県内に先駆けて村山総合支庁が取り組んでいるが、県内全域にこの取り組みを普及させるため他総合支庁や関係団体等に情報の提供等を行った。

(6) 状況写真

【モデル実施】



アクティビティの説明



木登り



葉っぱのお面



ロープ登り

【研修会】



保育者養成講座



サポーター養成講座

【検討委員会】



マニュアル作成の検討

【地域外への波及】



つるおか森の保育フォーラムで発表

3 おわりに

(1) 成果

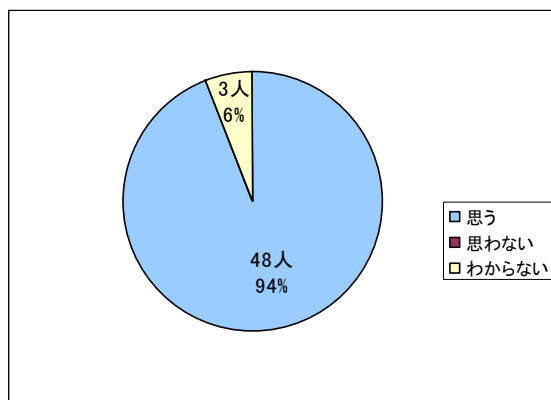
モデル実施園の保護者を対象にしたアンケート調査（図－1）（図－2）を行ったところ、子どもに自然環境を体験、学習させる方法として「村山版森のようちえん」に期待する好意的な意見がほとんどで、モデル実施園の保育者も園児の発育に大変良い効果があるので、今後も園の恒例行事として継続実施していきたいとのことであった。また、森の保育者、サポーターの養成も協力者が増えるなど一定の成果があり、「村山版森のようちえん」普及のため、（財）山形県みどり推進機構等の関係団体からの協力も得られたところである。なお、モデル実施で課題や問題点を抽出し、検討委員会で検討を重ねて作成した実施マニュアル「（図－3）に一部紹介する。」は、村山地域一円の保育施設が「村山版森のようちえん」を実施する際の手引きとして、活用されることが期待される。

(2) 課題、展望

今後は、実施園を支援するシステムの構築と実施園を増やすための取り組みが必要となる。そのため、平成24年度以降は、各地域で中核となり活動する保育施設を設定し重点的に支援育成することで、地域内の見本とし、地域の幼稚園や保育園への波及効果を期待する。また、実施マニュアルの周知と併せ、幼児教育や森林関係団体と連携し実施園へ講師の紹介、アドバイザー及びサポーター派遣、助成事業等を行い支援体制の充実を図っていく必要がある。

○ 保護者アンケート1

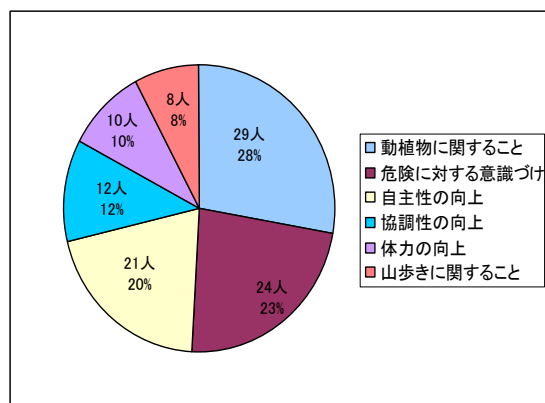
子どもに自然環境を体験させる手段として「村山版森のようちえん」は効果があると思うか。



(図－1)

○ 保護者アンケート2

「村山版森のようちえん」子どもに体験や学習して欲しいものは何か。



(図－2)

○ 実施マニュアルから抜粋

「村山版森のようちえん」実施までのフローチャート

